FUKUI COMPUTER

ARCHITREND Modelio

基本操作編

本書は、Modelioの概要、起動方法から、プラン入力の基本的な操作について解説したテキストです。

目次

ARCHITREND Modelio 基本操作編

1. ARCHITREND Modelioの概要 1

1－1 Modelioの基本的な流れ 1

2. Modelioの起動と画面まわりの確認 2

2－1 Modelioの起動 2

2－2 画面まわりの確認 3

3. データの入力 4

3－1 平面画面の拡大・縮小 4

3－2 部屋の入力 6

3－3 建具の入力 10

4. データの選択と編集 11

4－1 データの選択 11

4－2 データの編集 13

5. 屋根・建具の自動配置 16

6. 立体データの確認 16

6－1 外観の確認 16

6－2 内観の確認 18

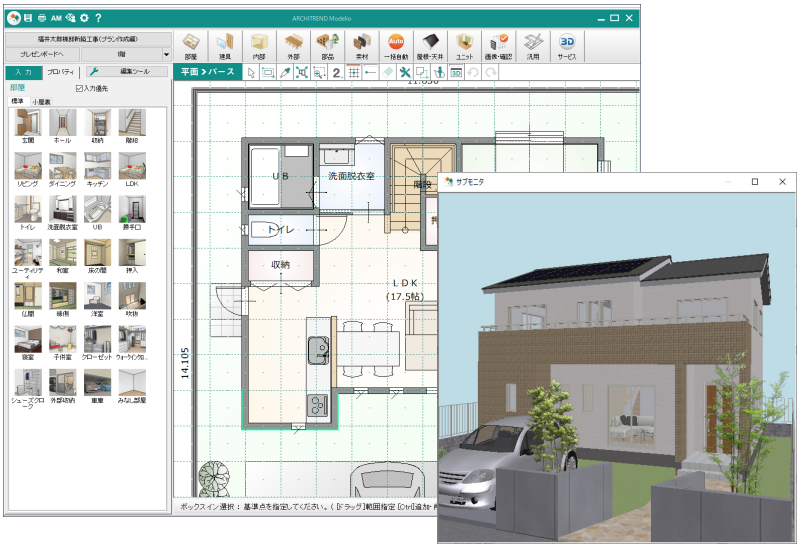
7. プランの保存とプログラムの終了 19

1 ARCHITREND Modelio の概要

ARCHITREND Modelio（以降、Modelio）はパースを見せながら住宅提案に必要な平面プランを簡単に入力でき、高品質なプレゼン画像、プレゼンボードまでを作成できる住宅営業支援システムです。
素早くプランを提出することでお施主様へのアピールにもつながります。

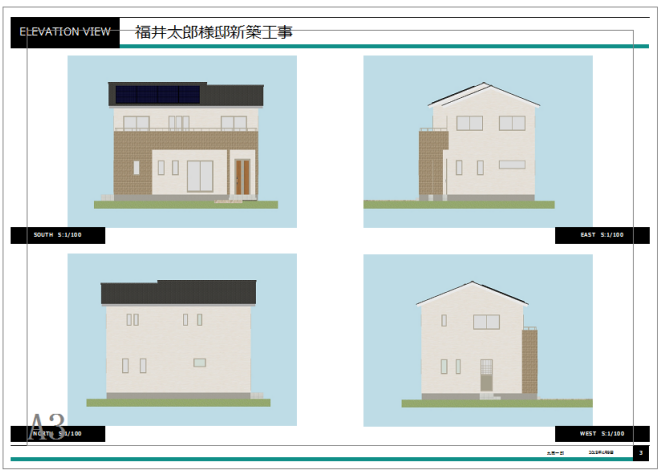
1-1 Modelioの基本的な流れ

プラン入力



プレゼン画像の作成

プレゼンボードの作成



2 Modelio の起動と画面まわりの確認

2-1 Modelioの起動

プログラムを起動する

❶ デスクトップの「ATModelio Ver6」アイコンをダブルクリックします。

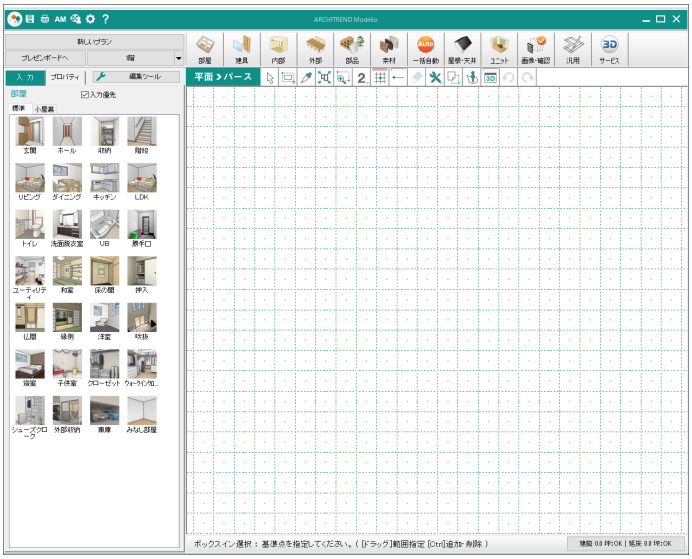
❷ データフォルダを確認します。

❸ 「新規」をクリックします。

❹ ここでは、プラン名を「練習プラン」に変更します。

❺ シリーズを選択します。
ここでは、「ナチュナルベーシック」をクリックします。

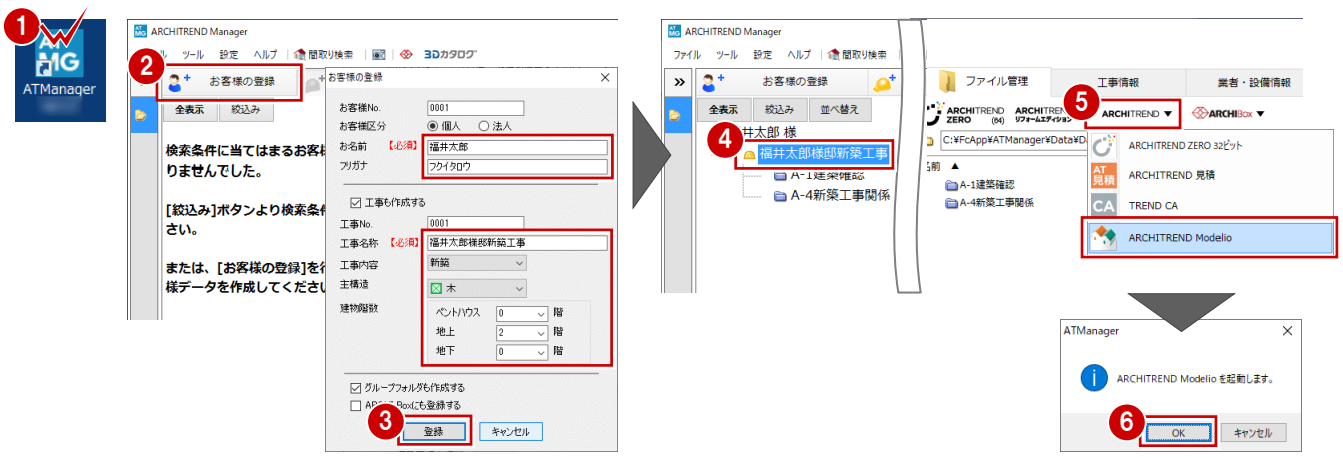
❻ 「完了」をクリックします。
Modelio の画面が表示されます。



補足 Managerをお持ちの場合

ARCHITREND Manager（マネージャー）は、ARCHITRENDシリーズのファイル管理ツールです。作成したプランデータはもちろん、WordやExcelなどで作成した書類も一元管理し、マネージャーから直接開くこともできます。

ManagerからのModelioデータを作成する場合は、以下のような手順になります。



2-2　画面まわりの確認

入力画面について、各部の名称と機能を確認しましょう。

階変更

上階、下階、屋根、敷地を表示します。

プレゼンボードへ

プレゼンボードの編集画面へ切り替えます。

プラン変更

別のプランへ変更することができます。

サブモニタ

「モニター表示/非表示」をクリックすると、サブモニタにパースを表示できます。
（パース表示のときは、サブモニタに平面が表示されます。）

共通ツールバー

平面、パースに共通したコマンドが配置されています。

専用ツールバー

プラン作成から画像の作成・確認までを行うコマンドが配置されています。

2Dツールバー

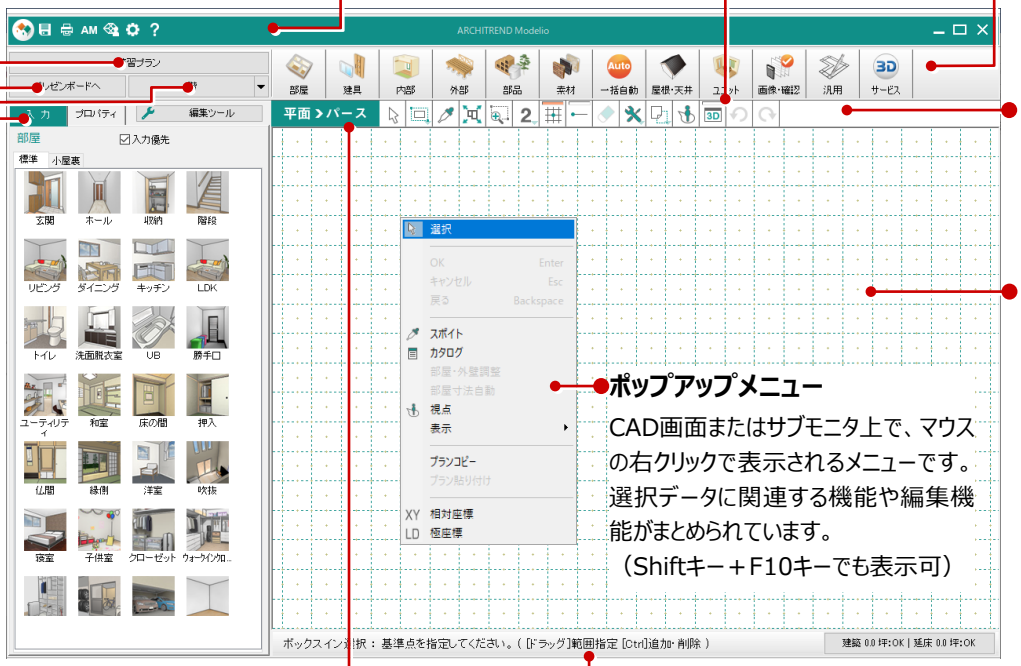
平面で使用するコマンドが配置されています。

CAD画面

プランを作成する画面です。
ツールバーの「平面　＞パース」で、平面表示とパース表示を切り替えることができます。

ポップアップメニュー

CAD画面またはサブモニタ上で、マウスの右クリックで表示されるメニューです。
選択データに関連する機能や編集機能がまとめられています。
（Shiftキー＋F10キーでも表示可）



メッセージバー

現在選択されているコマンドについてメッセージが表示されます。

入力パネル

部屋・素材・部品・建具の一覧や外部・内部・汎用などの部材一覧が表示されます。

画面切替

クリックすると、画面が平面またはパースに切り替わります。

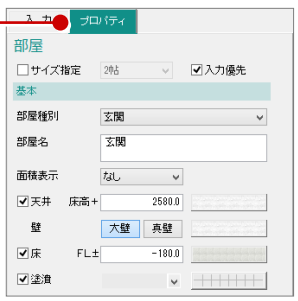
3Dツールバー

パースで使用するコマンドが配置されています。

プロパティパネル

選択しているコマンドのプロパティが表示されます。

※ F3キーで入力・プロパティパネルを切り替えることができます。



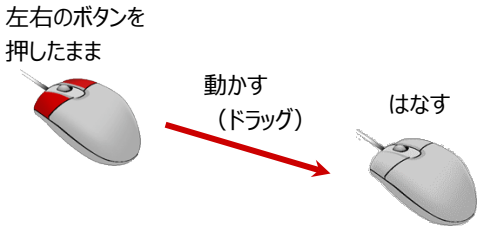
3 データの入力

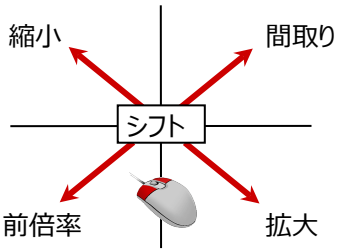
3-1 平面画面の拡大・縮小

Modelioでは画面の拡大・縮小といった操作を素早く行えるように、Jw_cadと同じ「両ボタンドラッグ」を採用しています。

両ボタンドラッグで画面を操作する

両ボタンドラッグとは、マウスの左右ボタンを同時に押したまま、マウスを移動する操作方法です。





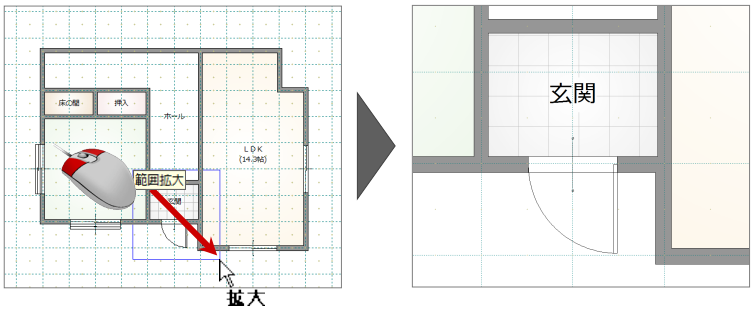
ドラッグ方向	画面操作
右下	拡大
右上	間取
左下	前倍率
左上	縮小
動かさない	シフト（表示移動）

【ドラッグ方向と画面操作の関係】

－ 画面を拡大する －

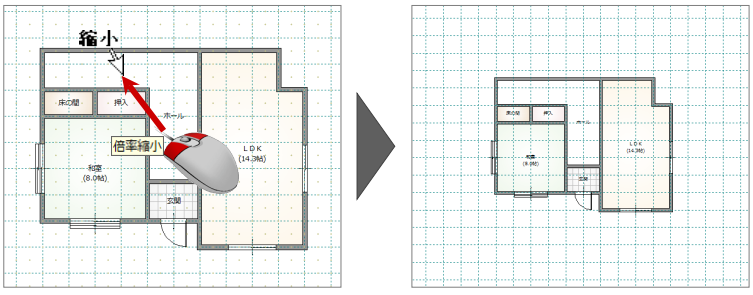
拡大したい範囲の左上でマウスの左右のボタンを同時に押し、そのまま右下方向へドラッグしてボタンをはなすと、指定した範囲が画面いっぱいに表示されます。

ツールバーの「範囲拡大」で同様の操作ができます。



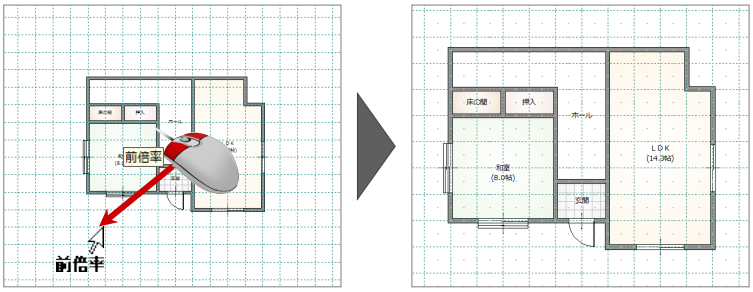
－ 画面を縮小する －

マウスの左右のボタンを同時に押し、そのまま左上方向へドラッグしてボタンをはなすと、画面の中心を基準に縮小されます。



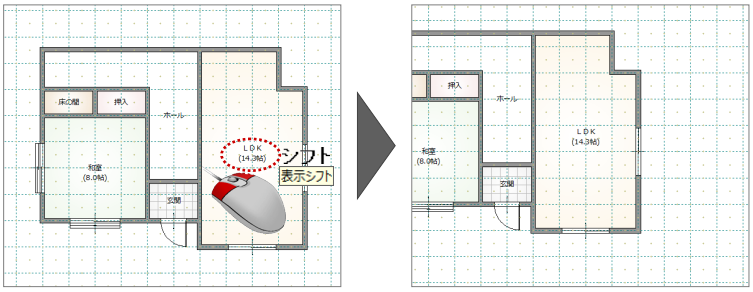
－ 画面を前倍率に戻す －

マウスの左右のボタンを同時に押し、そのまま左下方向へドラッグしてボタンをはなすと、1 つ前の表示範囲に戻ります。



－ 画面を移動する（シフト） －

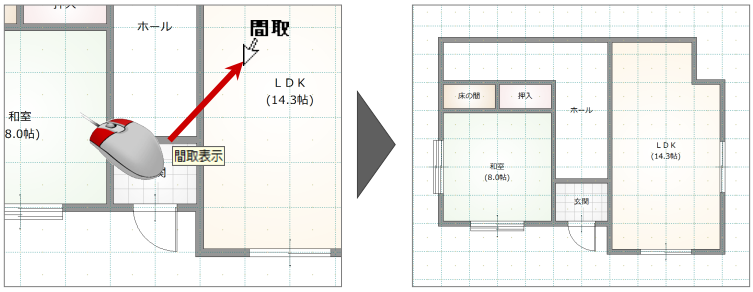
マウスの左右のボタンを同時に押し、動かさずにボタンをはなすと、その位置に画面の中心が移動します。



－ 全体を表示する（間取表示） －

マウスの左右のボタンを同時に押し、そのまま右上方向へドラッグしてボタンをはなすと、部屋が入力されているエリアが画面いっぱいに表示されます。

ツールバーの「フィット表示」でも同様に操作できます。



その他の方法で画面を操作する

両ボタンドラッグのほかに、マウスホイールやキーボードを使って画面を操作できます

マウスホイールによる画面操作	
拡大・縮小	ホイールを上下に動かすと、画面が拡大・縮小されます。
表示移動	ホイールボタンを押したままマウスを動かすと、表示画面が移動します。
キーボードによる画面操作	
拡大・縮小	Page Downキーを押すと、画面の中心を基準に拡大されます。 Page Upキーを押すと、画面の中心を基準に縮小されます。
間取り表示	Homeキーを押すと、部屋領域が画面いっぱいに表示されます。
表示移動	←・↑・→・↓キーを押すと、指定した方向に表示が移動します。

補足

拡大率を変更するには

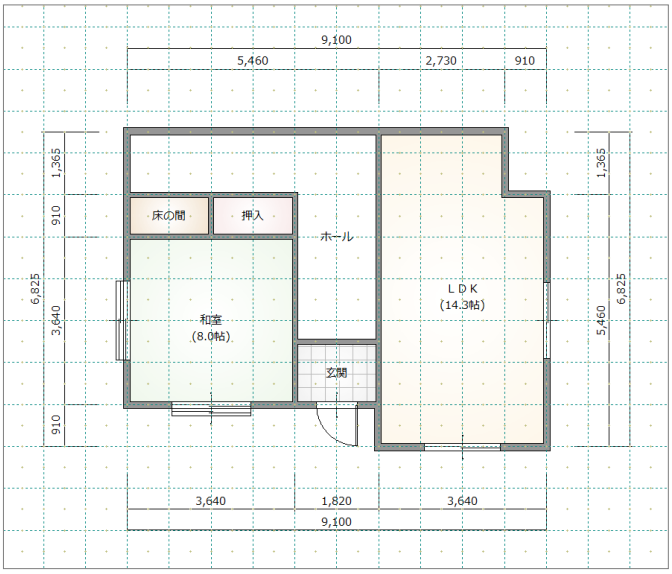
平面を拡大・縮小するときの倍率を変更することができます。

共通ツールバーの「初期設定」をクリックして、「基本」タブの「システム」にある「拡大率」で設定します。

3-2 部屋の入力

間取りは、「部屋」を使用して入力します。
ここでは練習用の間取りを使って、部屋入力の3つの方法を紹介します。
また、「クイック建具」を使って、外部に建具を入力してみましょう。

※ 右図では、解説のため部屋寸法を入力しています。



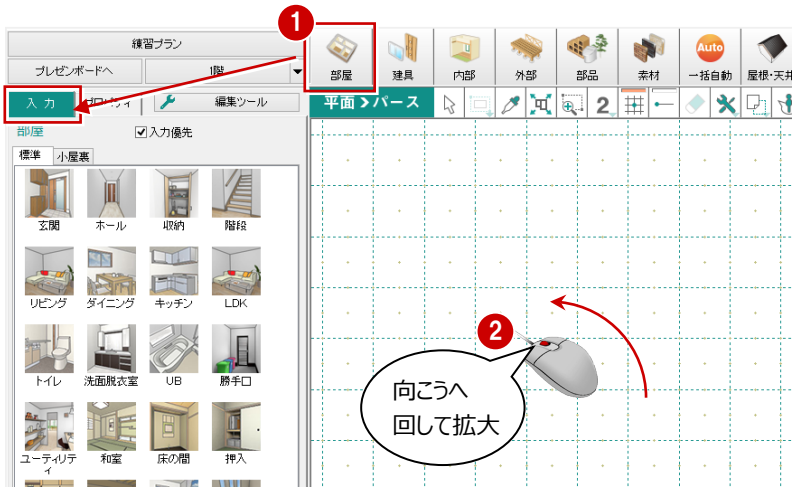
ドラッグ&ドロップで部屋を入力する

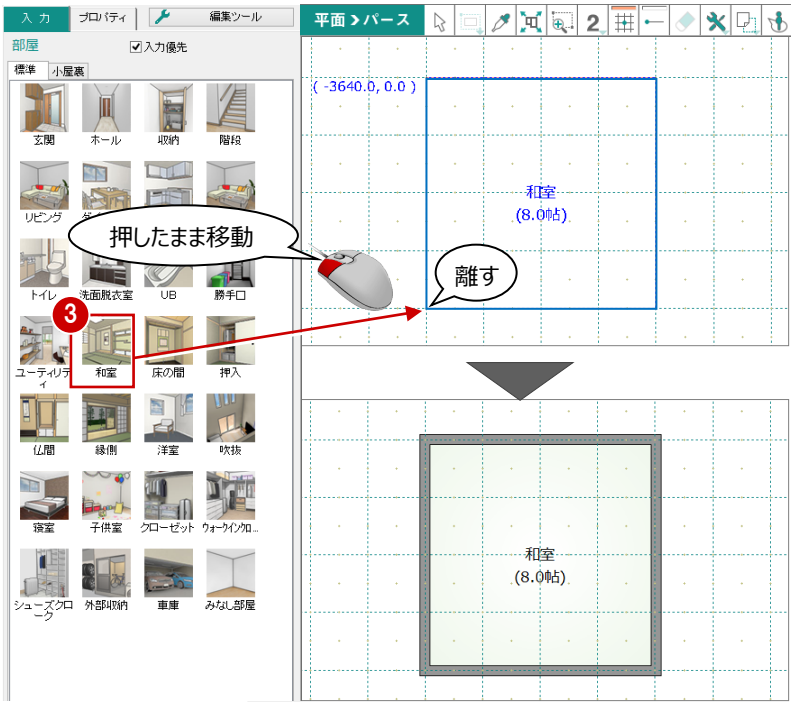
❶「部屋」をクリックして、部屋の入力パネルを開きます。

❷ CAD 画面を拡大します。

マウスのホイールを向こうへ回して、画面を拡大します（手前に回すと縮小します）。

❸「和室」を選んで、マウスの左ボタンを押しながらドラッグして離します。和室が入力できます。





ドラッグ＆ドロップとは

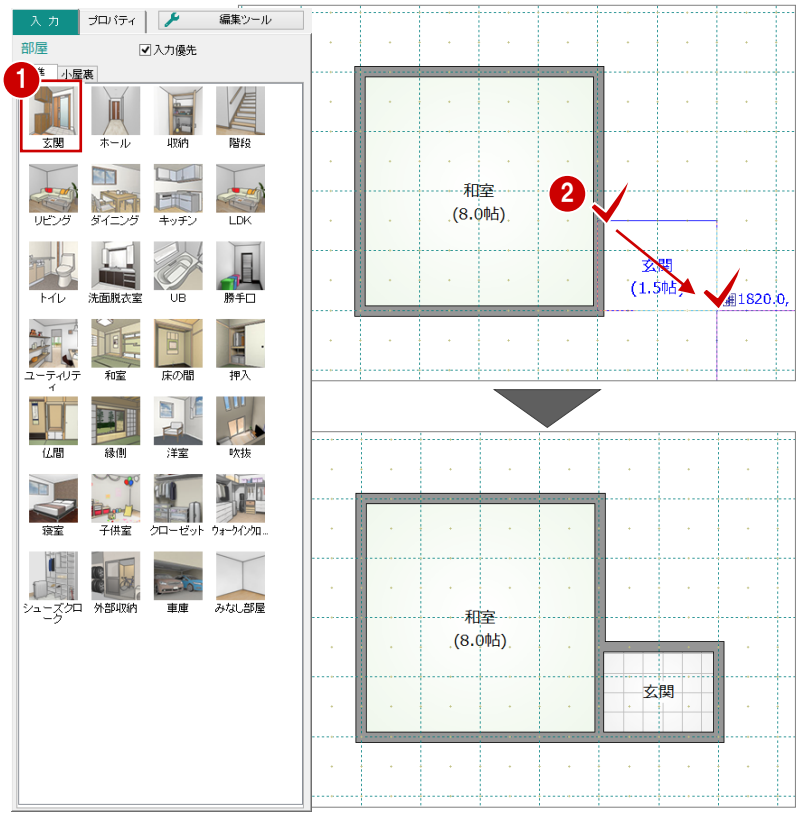
マウスの左ボタンを押したまま、マウスポインタを移動して目的の場所で離す操作です。

部屋の入力以外にも、素材を変更するときやボードを追加するときなどに使用します。

矩形の部屋を入力する

❶ 入力したい部屋（ここでは「玄関」）を選びます。

❷ 矩形の始点と対角点をクリックします。

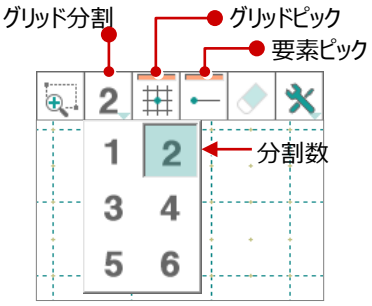


グリッドとピックモードについて

平面画面の点線で表示されているマス目を「グリッド」といい、手書きで図面を書くときの方眼紙の役割をします。

このグリッドやデータを利用して、マウスで正確な位置をつかむ（ピックする）機能を「ピックモード」といいます。

ピックモードには「グリッドピック」「要素ピック」「フリー」があり、アイコンをクリックしてON／OFFを切り替えます。

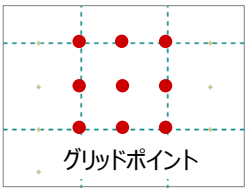


グリッドピック

ON のとき、グリッド（マス目の交点）をピックすることができます。

また、グリッド分割で指定した分割数によってできた点もピックすることができます。

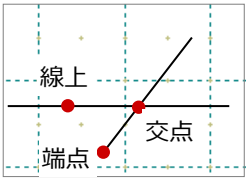
グリッドと分割数によってできる点を「グリッドポイント」といいます。



要素ピック

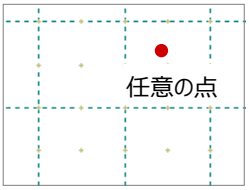
ON のとき、入力点や基準点の位置が自動判断され、検索範囲内にある要素のポイント（交点・端点・線上）をピックすることができます。

どのモード（交点・端点・線上）でピックしようとしているかは、マウスカーソルに表示されているマークで判断することができます。



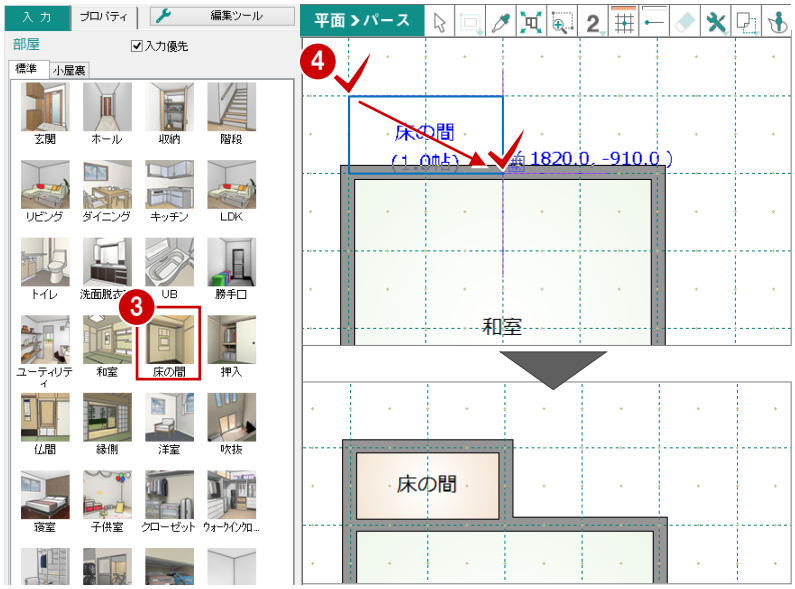
フリー

「グリッドピック」「要素ピック」が共にOFF のとき、ピックモードは「フリー」となり、画面上の任意の位置をピックすることができます。

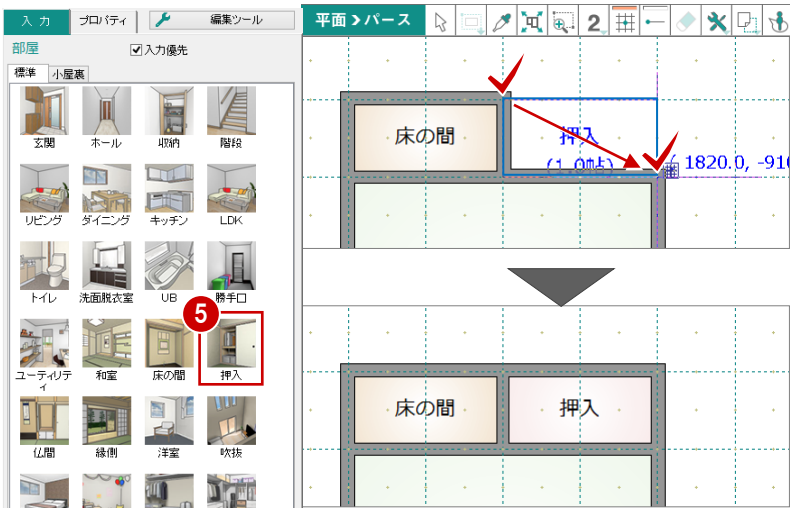


❸ 入力パネルで「床の間」をクリックします。

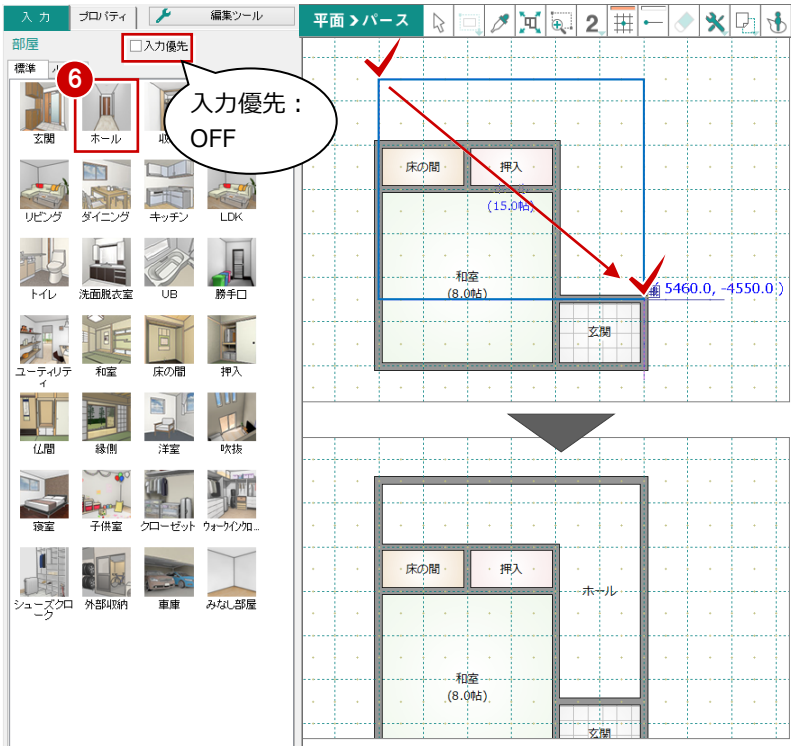
❹ 矩形の始点と対角点をクリックします。



❺ 同様な操作で、床の間の隣に「押入」を入力します。



❻ 同様な操作で「ホール」を入力します



入力優先とは

玄関ホールや廊下などを選ぶと、「入力優先」がOFFになります。

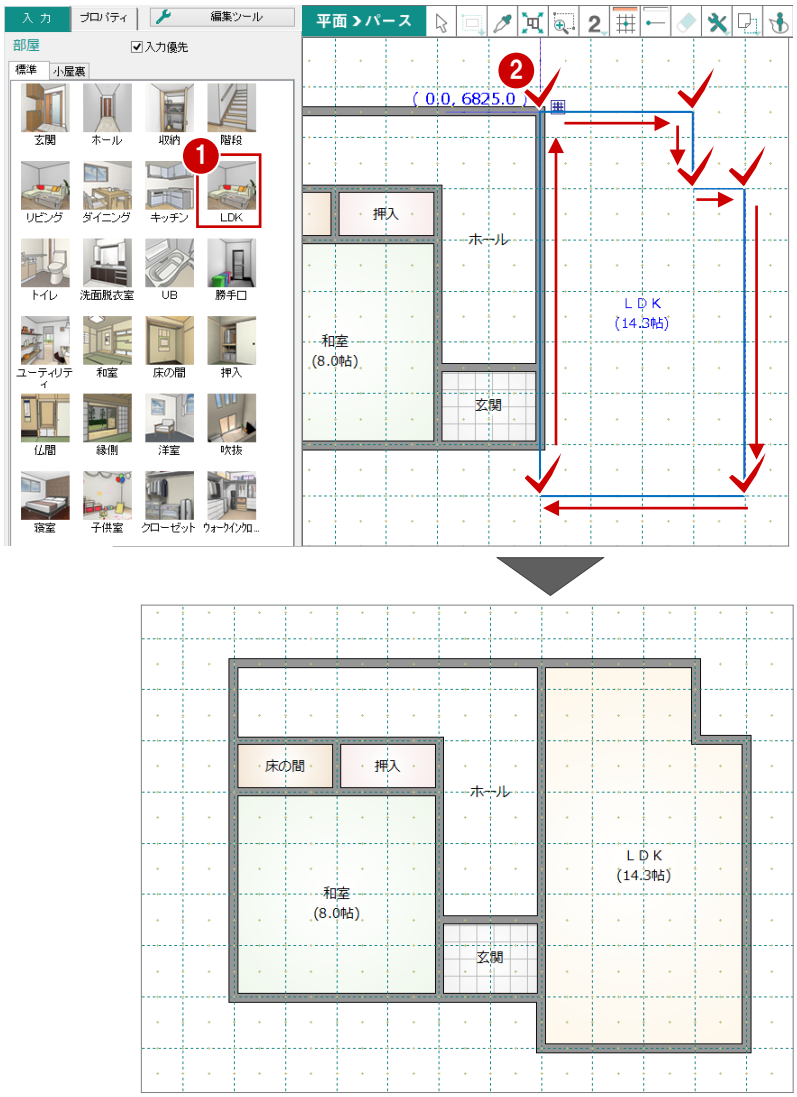
- 入力優先OFFの場合、部屋同士が重なる部分は、先に入力されている部屋が優先されます。
- 入力優先ONの場合、後から入力した部屋が優先されます。

多角形の部屋を入力する

❶ 入力パネルで「LDK」をクリックします。

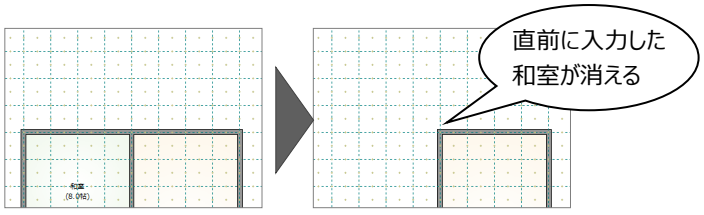
❷ 部屋の始点をクリックし、水平もしくは垂直の位置に 2 点目を取ると多角形入力になります。

部屋のコーナーを順にクリックし、最後に開始点（1 点目）をクリックします。



入力を間違えた場合には

入力したあとで部屋の位置やサイズの間違いに気付いた場合は、↶ ↷ をクリックすると直前に行った操作が取り消されます。↶ は連続して10回前まで操作を戻すことができます。↶ で行った操作をやり直すには、↷ をクリックします。

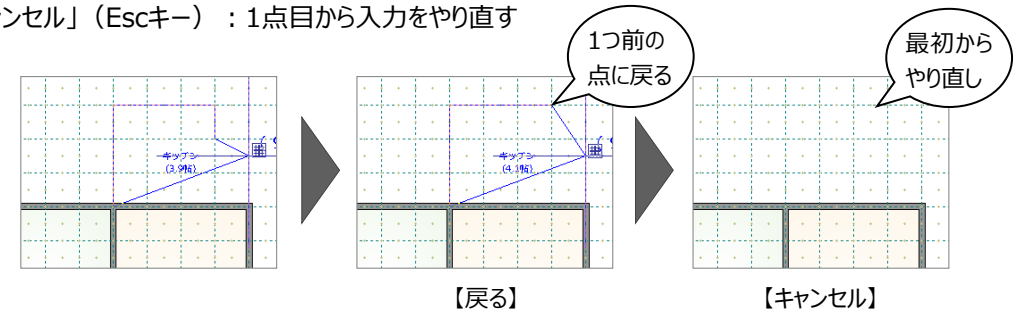


【 ↶ 】

入力の途中でクリックする位置を間違えた場合は、マウスを右クリックして「戻る」または「キャンセル」を選びます。

・「戻る」（Backspaceキー）：最後にクリックしたポイントを取り消して1つ前のポイントに戻る

・「キャンセル」（Escキー）：1点目から入力をやり直す



【戻る】　【キャンセル】

3-3 建具の入力

ここでは、クイック建具を使って、外部に建具を入力してみましょう。

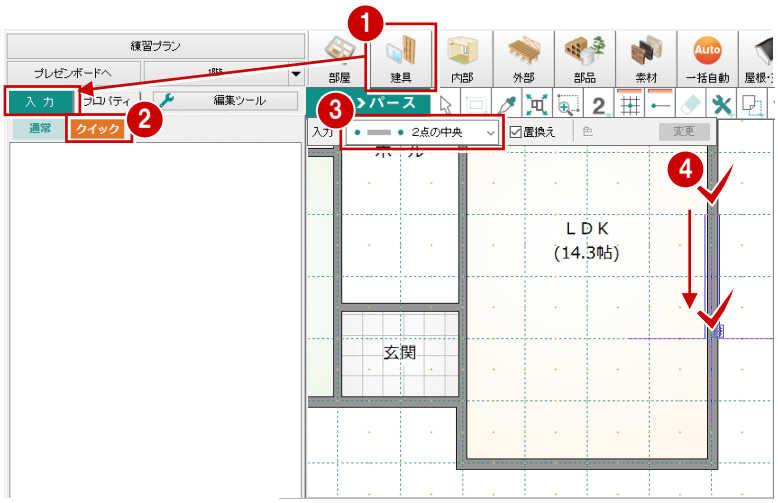
※ クイック建具入力では、入力する部屋と指定する2点間の距離から建具を自動判定して配置します。

❶❷「建具」を選択して、入力パネルで「クイック」を選びます。

❸「入力」を「2 点の中央」に変更します。

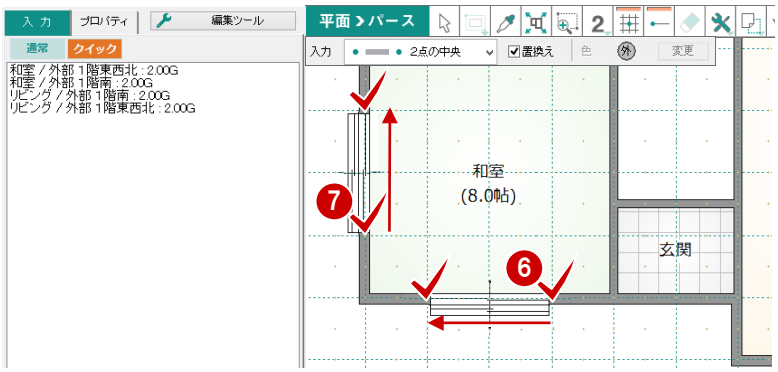
❹ 入力したい建具の開口幅をクリックすると、自動的に建具が配置されます。

❺ 同様な操作で、LDK に建具を入力します。



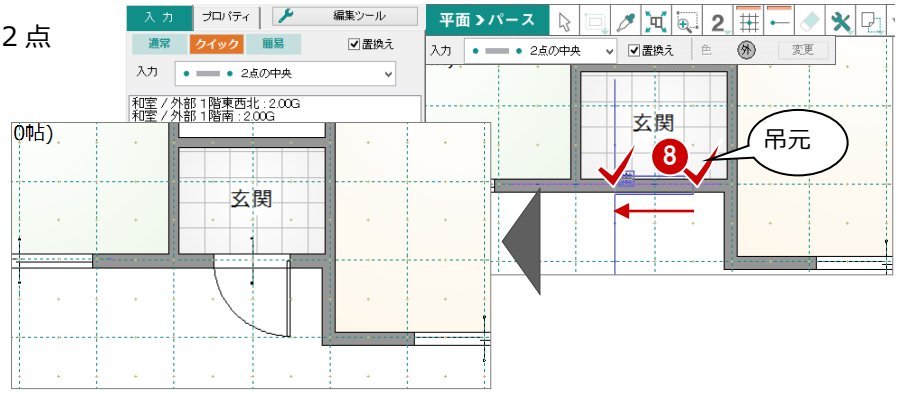
入力した建具の履歴（部屋・方位・建具幅）が表示されます。

❻❼ 同様な操作で、和室に建具を入力します。



❽ 同様な操作で、玄関に建具を入力します。

ドアが配置されますので、1 点目は吊元、2 点目は開口幅をクリックします。



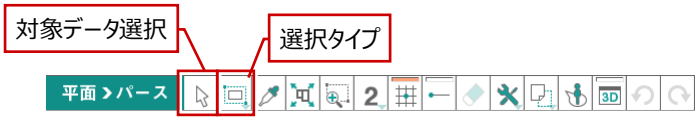
4 データの選択と編集

4-1 データの選択

入力されているデータを編集するには、データを選択する必要があります。
ここではデータの選択方法を紹介します。

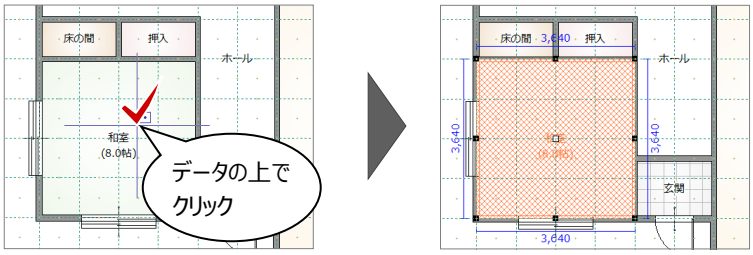
データを選択する

ツールバーの「対象データ選択」をクリックすると、「選択タイプ」が有効になり、データを選択できる状態になります。



– データの真上でクリックする –

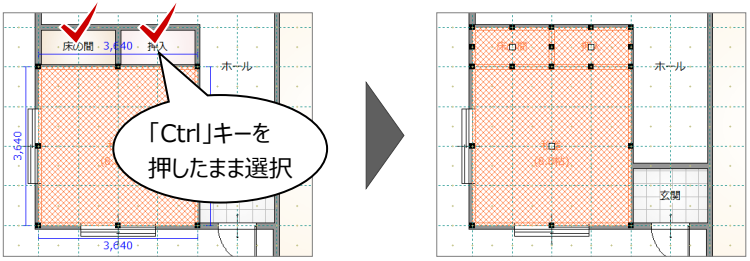
データの上でクリックすると、指定したデータが選択されます。



– データの選択を追加する –

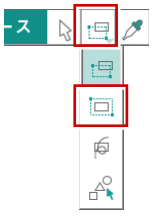
Ctrl キーを押しながらデータを選択すると、既に選択されているデータに追加できます。

※ データを選択している状態で、ポップアップメニューの「選択」、または Esc キーを押すと選択状態を解除できます。

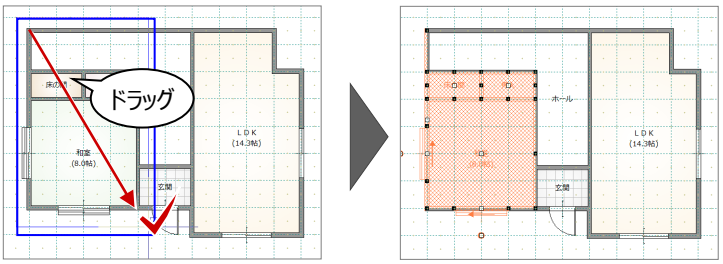


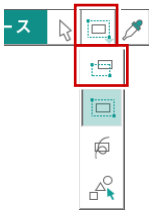
データの選択方法について

データの選択方法は、「選択タイプ」のメニューで切り替えることができ、「選択タイプ」には「ボックスイン選択」「ボックスタッチ選択」「フリーハンド選択」といった3通りのタイプがあります。

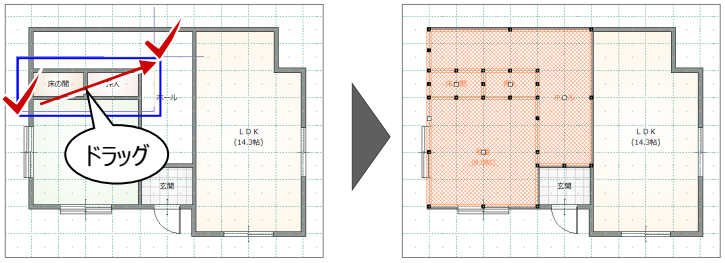


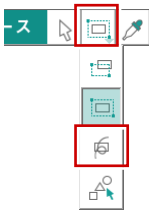
【ボックスイン選択】
マウスの左ボタンを押したまま、指定した矩形範囲に完全に含まれているデータを選択します。



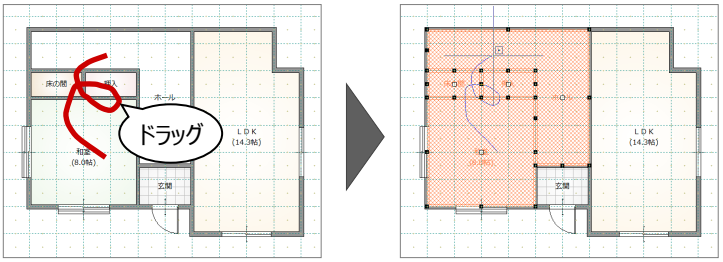


【ボックスタッチ選択】
マウスの左ボタンを押したまま、指定した矩形範囲にふれている、または含まれているデータを選択します。





【フリーハンド選択】
マウスの左ボタンを押したまま、なぞったデータを選択します。



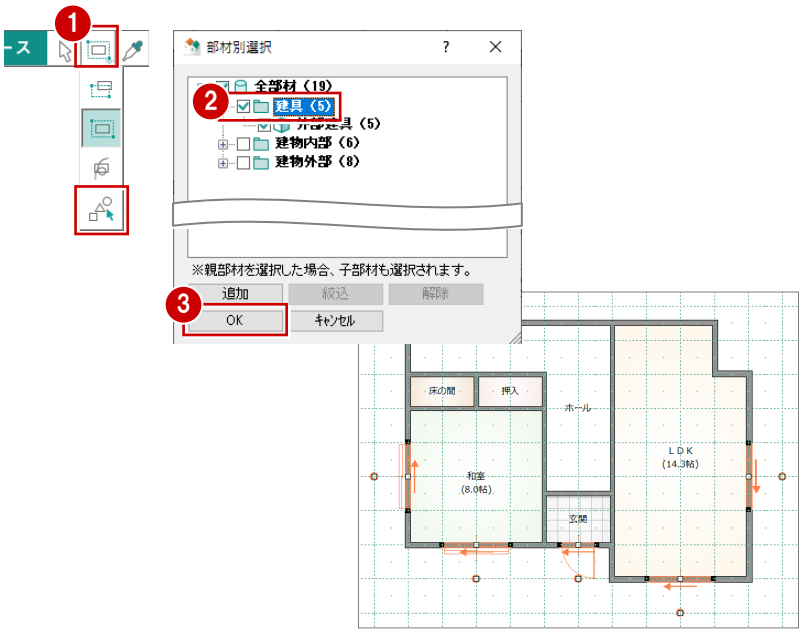
部位ごとに選択する

入力したデータの中から、部材種別を指定して選択することができます。

❶「選択タイプ」メニューから「部材別選択」を選びます。

❷「部材別選択」ダイアログで、目的の部材を指定します。

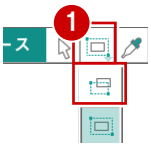
❸「OK」をクリックます。



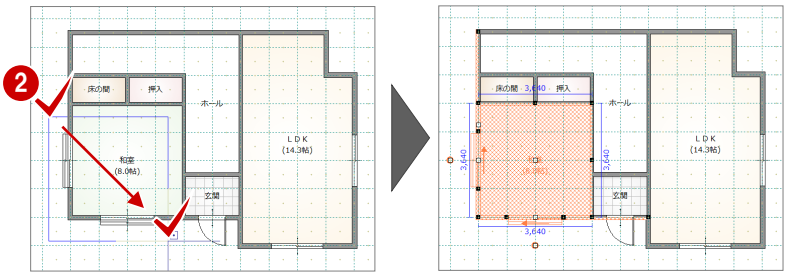
補足 選択データから絞り込んで選択するには

複数の選択データから部材を絞り込んで選択することもできます。ここでは、部屋、建具、外壁などの複数データが選択されている状態から建具だけを選択してみましょう。

❶「選択タイプ」メニューから「ボックスタッチ選択」を選びます。



❷ 和室の建具がすべて選ばれるように、範囲をドラッグします。

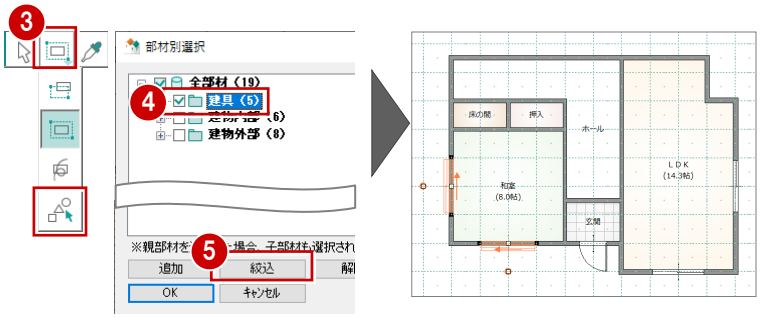


❸「選択タイプ」メニューから「部材別選択」を選びます。

❹「部材別選択」ダイアログで「建具」をONにします。

❺「絞込」をクリックします。

建具だけ選択できていることを確認できます。



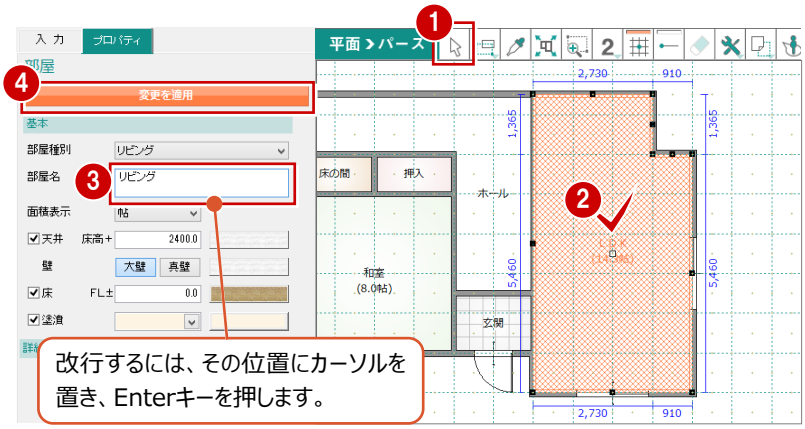
4-2 データの編集

次に、データのプロパティの変更、移動や変形、削除といった編集方法について確認してみましょう。
データを選択すると、選択されたデータの中心と外周に「ハンドル」（■または□）が表示されます。移動・変形（サイズを変更）は、このハンドルをドラッグして行います。

プロパティを変更する

入力した部屋の名称を変更するには、プロパティパネルで行います。

❶「対象データ選択」をクリックします。
❷ 変更したい部屋（LDK）を選択します。
❸「プロパティ」タブの「部屋名」を「リビング」に変更します。
❹「変更を適用」をクリックすると、部屋名の変更が図面に反映されます。



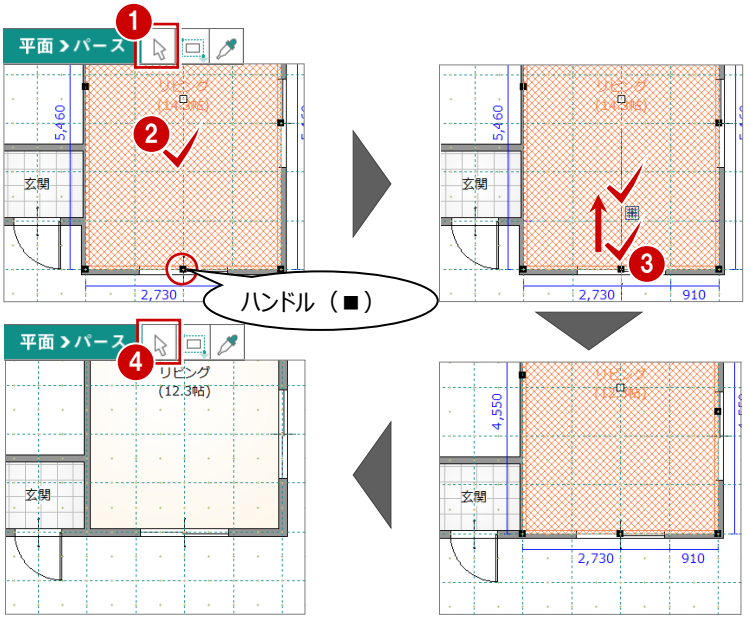
ハンドルを使う

データを選択すると、中心と周囲にハンドルが表示されます。このハンドルを移動して、領域変形などの編集ができます。

－ 領域を変形する －

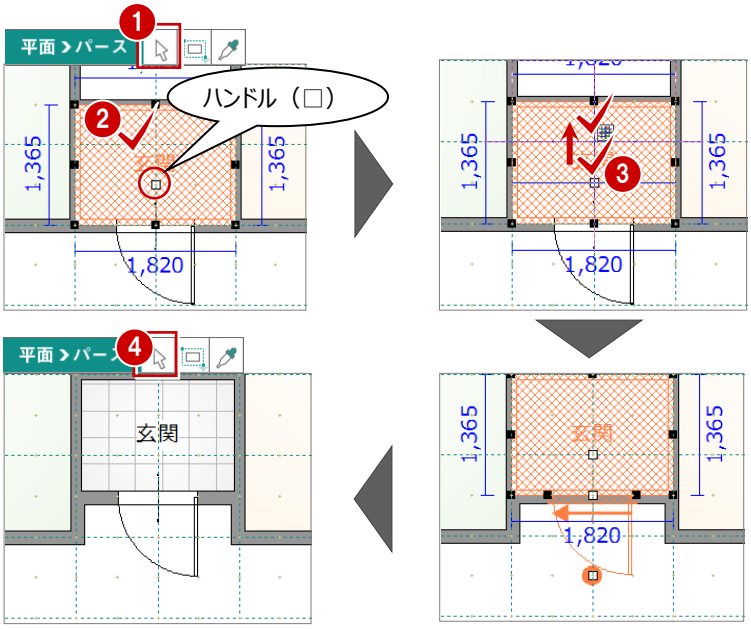
部屋などの領域のデータは、ハンドル（■）をクリックして移動先を指定すると、領域を変形できます。

❶「対象データ選択」をクリックします。
❷ 領域を変形する部屋を選択します。
❸ ハンドル（■）を変形したいところまでドラッグします。
❹「対象データ選択」をクリックして、選択を解除します。

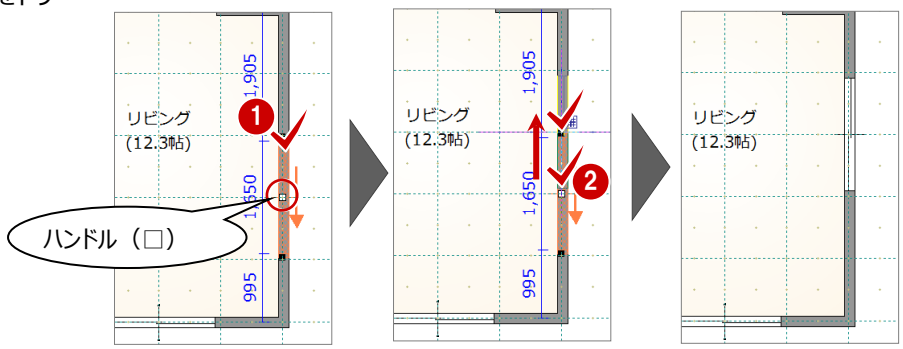


－ 移動する －

部屋などの領域のデータは、ハンドル（□）をクリックして移動先までドラッグすると、領域の大きさを変えずに移動できます。

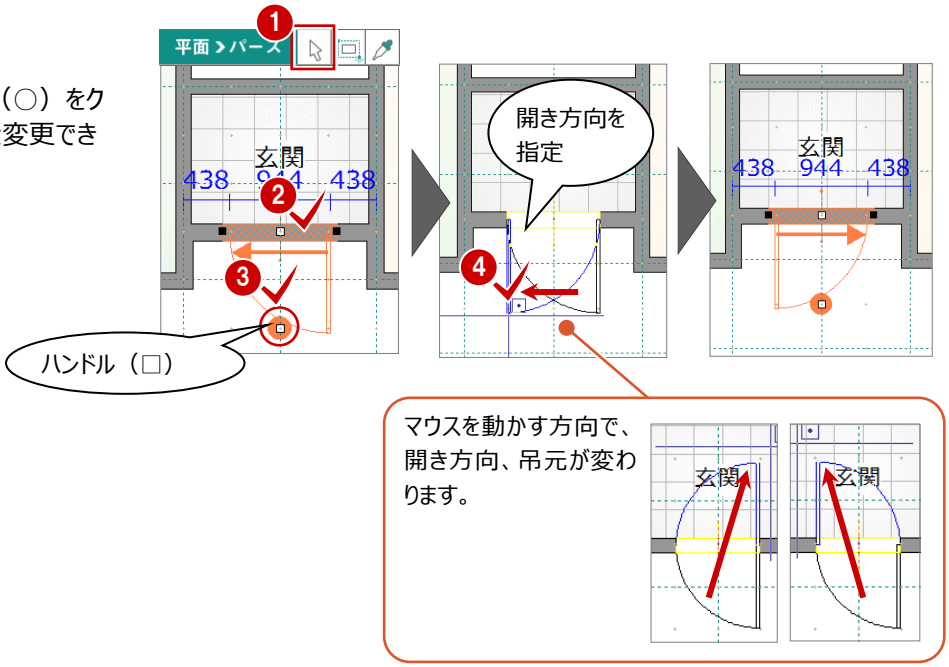


同様に、建具の配置位置もハンドル（□）をドラッグすることで移動できます。



－ 建具の開き勝手を変更する －

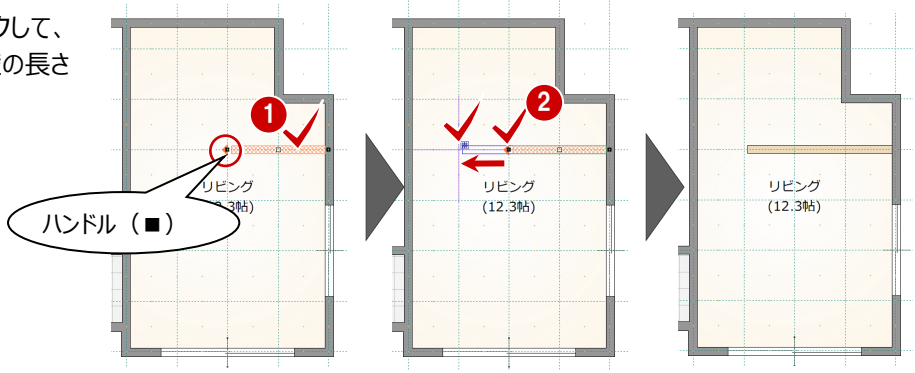
開き戸や引き戸、縦すべりは、ハンドル（○）をクリックして方向を指定すると、開き勝手を変更できます。



補足 ハンドルを使って伸縮や回転をするには

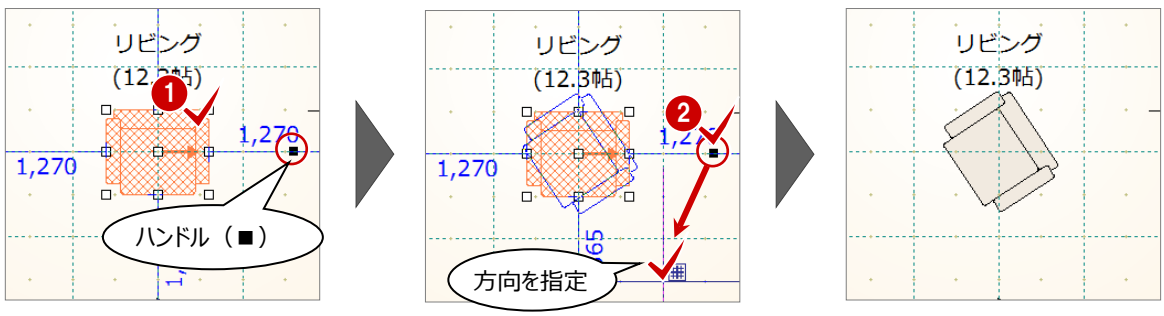
－ 袖壁などを伸縮する －

袖壁を選択し、ハンドル（■）をクリックして、伸縮したいところまでドラッグすると、袖壁の長さを変更できます。



－ 部品を回転する －

部品などは、ハンドル（■）をクリックして回転する方向を指定すると、部品を回転できます。



寸法エディットを使う

データを選択して表示される寸法値を直接変更して、サイズ変更や移動などの編集ができます。

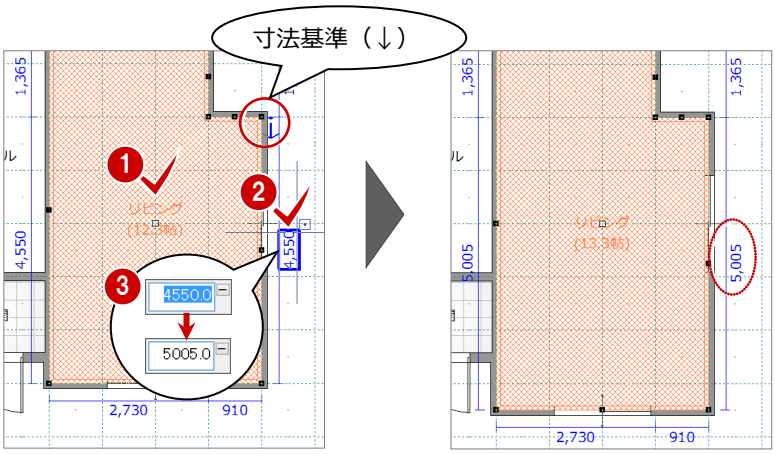
– サイズを変更する（部屋） –

❶ 部屋を選択します。

❷ 寸法値を囲む □ の枠内でマウスを動かすと、寸法変更の基準を示す矢印の向きが替わります。基準を確認しながら寸法値をクリックします。

❸ 寸法を入力して Enter キーを押します。

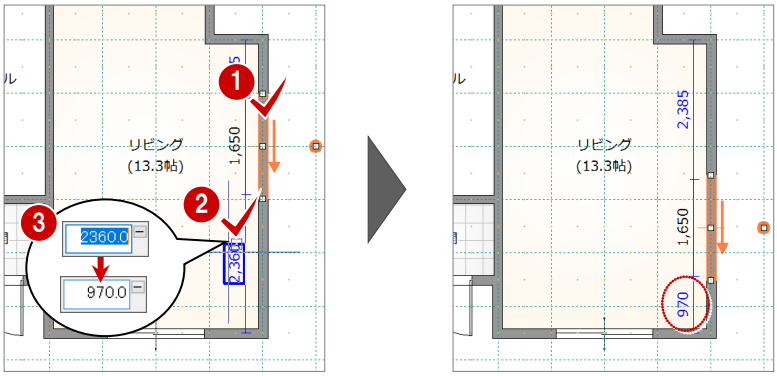
サイズが変更されます。



– 移動する –

建具や部品は、部屋線からの離れの寸法値を変更することで、指定した距離まで移動できます。

※ 離れの寸法が何を基準に表示されるかは、部材によって異なります。

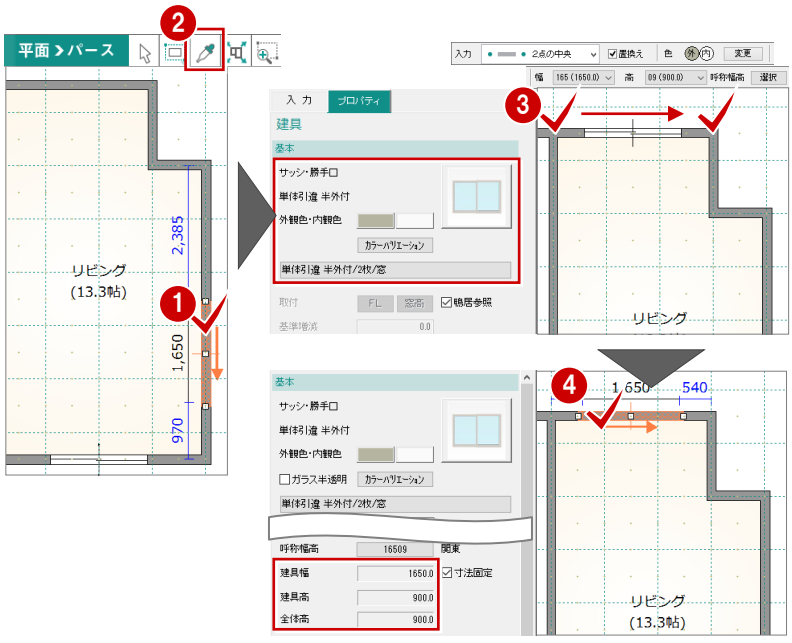


スポイトを使う

入力済みのデータを選択して、「スポイト」をクリックすると、同じデータを入力できる状態になります。

※ 「スポイト」をクリックしてからデータを選択しても構いません。

※ 部屋などスポイト対象外のデータもあります。また、データによって一部取得されないプロパティもあります。



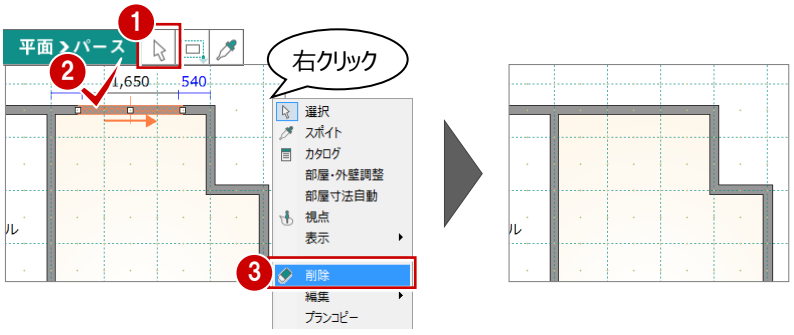
データを削除する

入力した建具は、削除しておきましょう。

❶ 「対象データ選択」をクリックします。

❷ 削除する建具を選択します。

❸ 右クリックして、ポップアップメニューから「削除」を選びます。



5 屋根・建具の自動配置

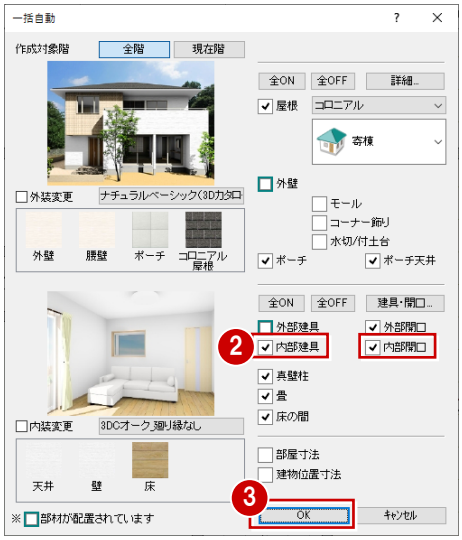
間取りが入力できたら、屋根や外装、建具などを間取りに合わせて自動配置しましょう。

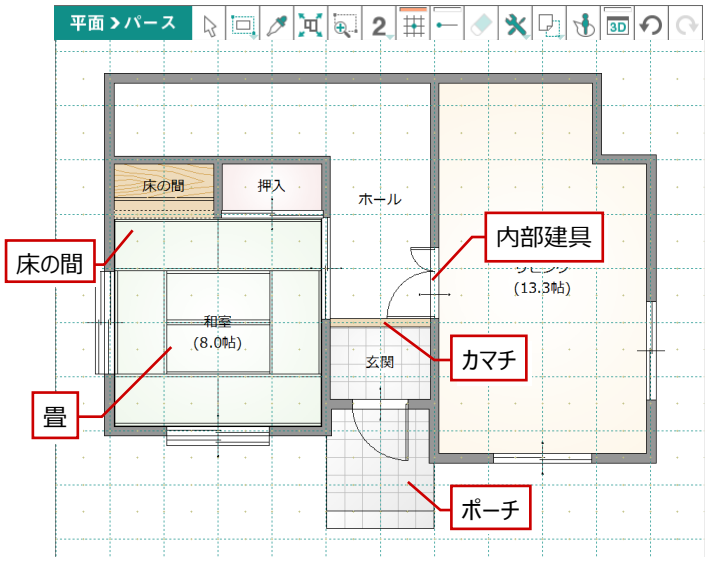
屋根・建具などを自配置する

❶「一括自動」をクリックします。

❷ ここでは、「内部建具」「内部開口」が ON であることを確認します。その他の設定も変更せず確認のみします。

❸「OK」をクリックします。
屋根、内部建具、ポーチなどが配置されます。





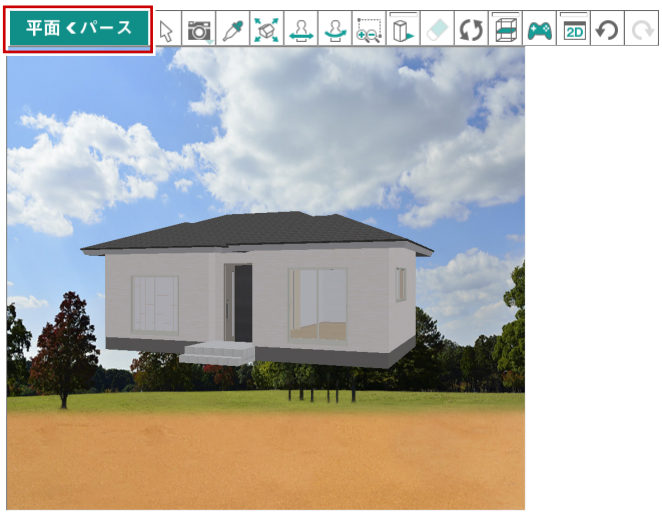
6 立体データの確認

6-1 外観の確認

自動配置が終了したら、パース画面に立体を表示して、建物をいろいろな角度から確認してみましょう。

画面を切り替える

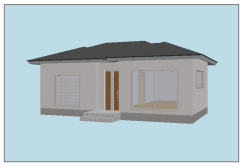
「平面＞パース」をクリックして、パース画面に表示を切り替えます。



パース画面の背景変更

以降の操作では、パース画面の背景を次のように変更して解説しています。

⇒ 背景の変更については、「プラン作成編」 P.2 参照



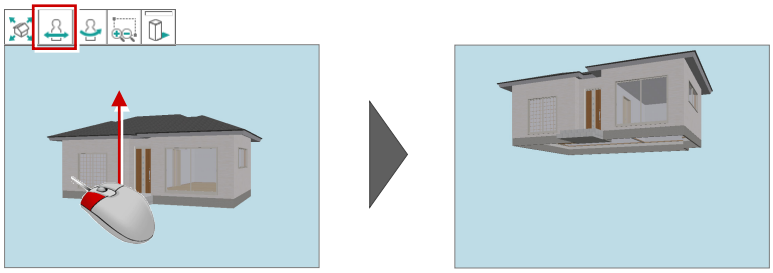
パース画面での操作

ツールバーのコマンドと、マウス操作による視点の変更を確認しておきましょう。

– 視点を移動する –

ツールバーの「視点移動」をクリックして、マウスの左ボタンを押したままドラッグします。ドラッグした方向に視点位置が移動します。

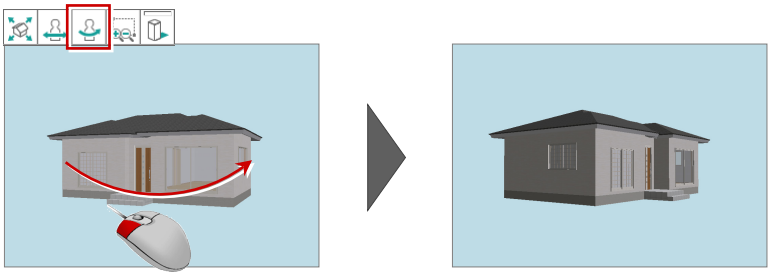
※ マウスのホイールボタンを押したままドラッグしても視点を移動できます。



– 視点を回転する –

ツールバーの「視点回転」をクリックして、マウスの左ボタンを押したままドラッグします。ドラッグした方向に視点位置が回転します。

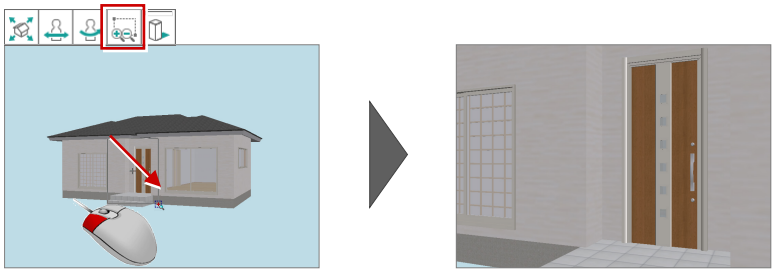
※ マウスの右ボタンを押したままドラッグしても視点を回転できます。



– 拡大・縮小する –

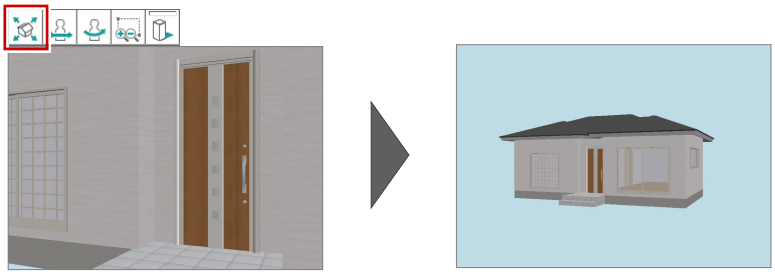
ツールバーの「範囲拡大縮小」をクリックして、拡大したい範囲の左上からマウスの左ボタンを押したままドラッグし、範囲の右下でマウスを離します。指定した範囲が拡大表示されます。

反対に、右下から左上に向かってドラッグすると縮小になります。



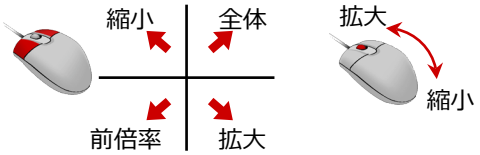
– 全体表示する –

ツールバーの「フィット表示」をクリックすると、建物全体が表示画面に収まるように表示されます。



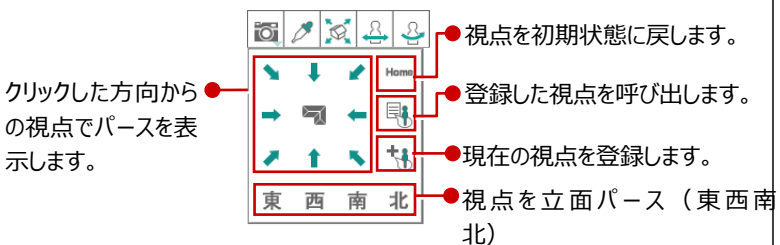
両ボタンドラッグによる操作

平面表示と同様に、マウスの両ボタンドラッグを使用しても、パース画面の拡大・縮小などを行うことができます。



視点関連コマンドによる操作

「視点関連コマンド」をクリックして、メニューから見たい方向のカメラの視点に切り替えることができます。



6-2 内観の確認

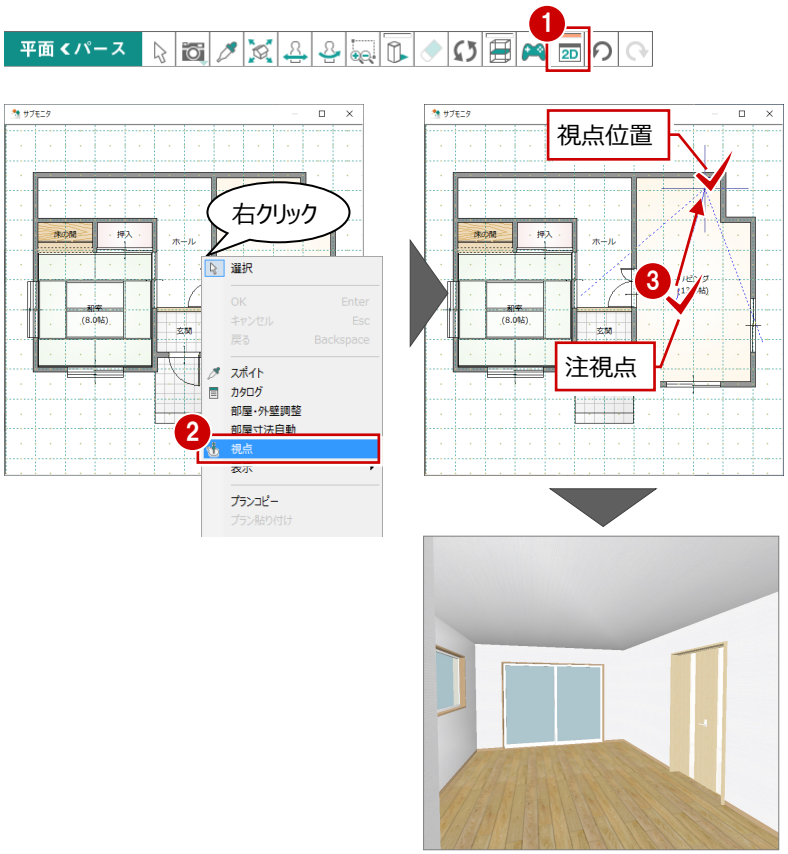
マウス操作で視点を変更して、内観を確認しておきましょう。

サブモニタから視点を設定する

❶「モニタ表示／非表示」をクリックして、サブモニタに平面を表示します。

❷ サブモニタで、右クリックしてポップアップメニューから「視点」を選びます。

❸ １点目（注視点）⇒ ２点目（視点位置）を順にクリックします。



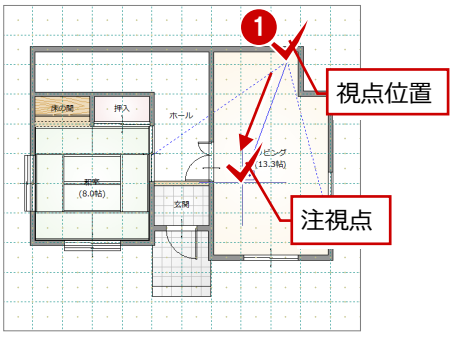
メイン画面が平面表示の場合

2Dツールバーの「立体での視点を平面で指定」で視点を設定します。平面上で視点を設定すると、サブモニタでパースを確認することができます。

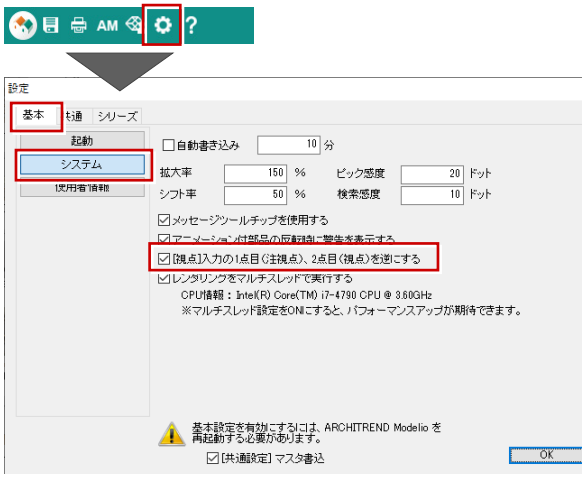
補足 **注視点と視点方向の指定を逆にするには**

１点目（視点位置）⇒ 2点目（注視点）の順で視点を設定したいときは、「設定（基本設定－システム）」にある「「視点」入力の１点目（注視点）、2点目（視点）を逆にする」をONにします。

※ 設定を有効にするには、Modelioを再起動する必要があります。



【ONの場合】



7 プランの保存とプログラムの終了

プランが作成できたらデータを保存して、Modelioを終了しましょう。

データを保存する

❶ 共通ツールバーの「上書き保存」を選びます。

❷ プラン名を確認します。

ここでは、「プラン名」が「練習プラン」であることを確認します。

❸ 「保存」をクリックします。

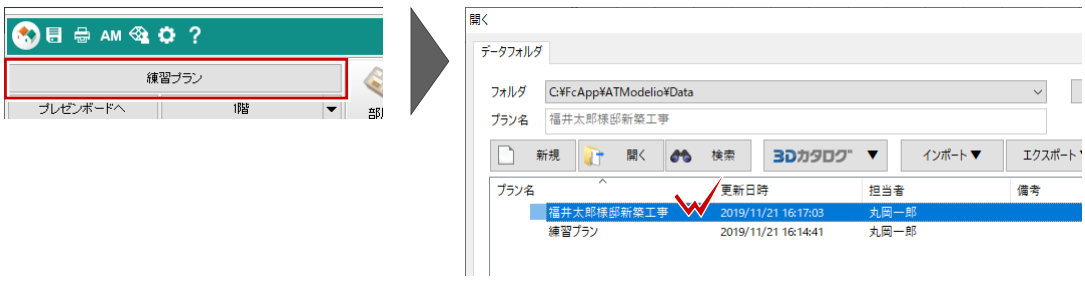
ファイルが保存されます。

Modelio を終了する

❶ Modelio 画面右上の「閉じる」をクリックします。

他のプランを開くには

プラン名が表示されている箇所をクリックして、プランを選びます。



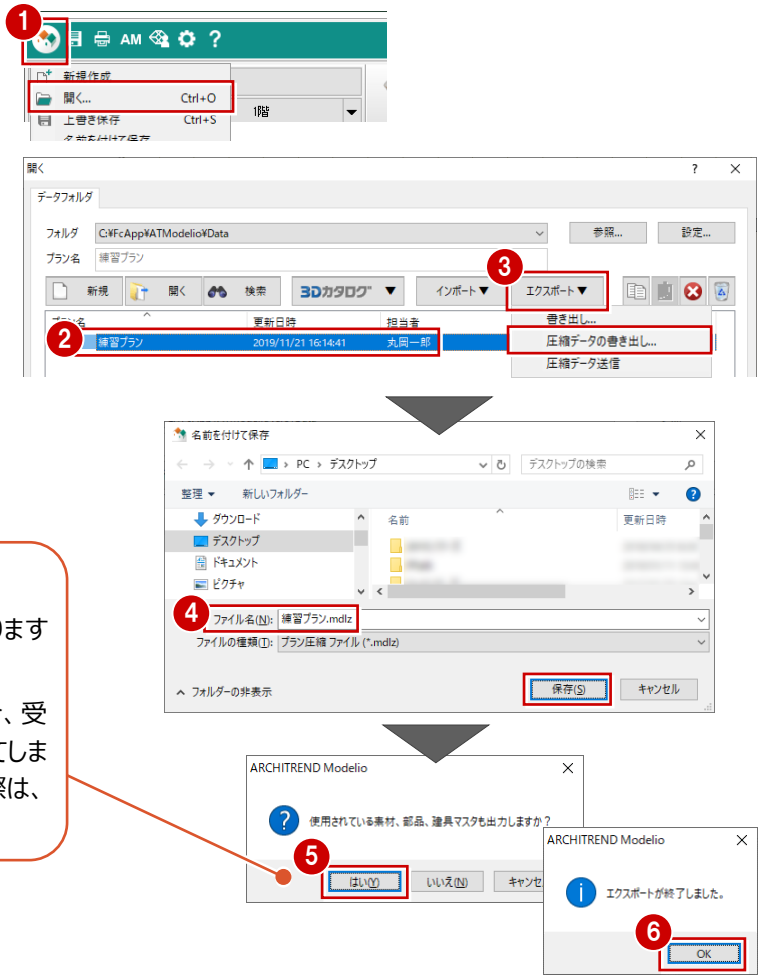
補足

プランデータのエクスポート・インポート

作成したプランデータをバックアップしたいとき、また他のPCでも使用したいときは、プランデータをエクスポートします。
ここでは、圧縮ファイル（*.mdlz）のエクスポート、圧縮ファイルのインポートを行ってみましょう。

エクスポートする

1. 「処理」メニューから「開く」を選びます。
2. 出力するプランを選びます。
3. 「エクスポート」メニューから「圧縮データの書き出し」を選びます。
4. 圧縮ファイル名を設定して、「保存」をクリックします。
5. 素材・部品・建具マスタの確認画面で「はい」をクリックします。
6. 終了の確認画面で「OK」をクリックします。



マスタデータの出力

マスタデータも出力するとファイルサイズは大きくなりますが、マスタも同時に出力することをお勧めします。

ファイルを受け取る側に同じマスタが存在しない場合、受け取り側でプロパティの変更などでエラーが表示されてしまいます。なお、マスタ込みのファイルをインポートする際は、取り込むかどうかを選択できます。

インポートする

1. 「開く」ダイアログの「インポート」メニューから「圧縮データの取り込み」を選びます。
2. 取り込む圧縮ファイルをダブルクリックします。
3. 取り込むプラン名をダブルクリックします。
4. マスタが出力されている場合、取り込みの確認画面で「はい」をクリックします。
5. 「インポートオプション」ダイアログで「更新フラグに従う」が ON であることを確認して、「OK」をクリックします。
6. 終了の確認画面で「OK」をクリックします。